

立川市ドリーム学園 のあり方



令和2（2020）年

立川市

内容

第1章 ドリーム学園のあり方の概要.....	2
1 施設建設の背景	2
2 策定趣旨	2
3 ドリーム学園のあり方の位置づけ.....	3
第2章 施設の状況	4
1 施設概要	4
2 利用状況	5
3 交通利便性	5
4 ランニングコスト（年間/平成30(2018)年度）	6
5 周辺状況	6
第3章 施設の課題	8
1 施設を取り巻く課題.....	8
2 今後の需要	9
第4章 ドリーム学園のあり方.....	10
1 今後の方向性（機能）	10
2 施設整備検討の方向性.....	11
3 施設整備に向けた課題.....	11
4 検討スケジュール.....	11

第1章 ドリーム学園のあり方の概要

1 施設建設の背景

立川市ドリーム学園（以下「ドリーム学園」）は、昭和46（1971）年に心身に障害を有する児童の福祉の増進を図るため、福祉会館に定員20名で設置された。その後、現園舎が昭和57（1982）年に建設された。

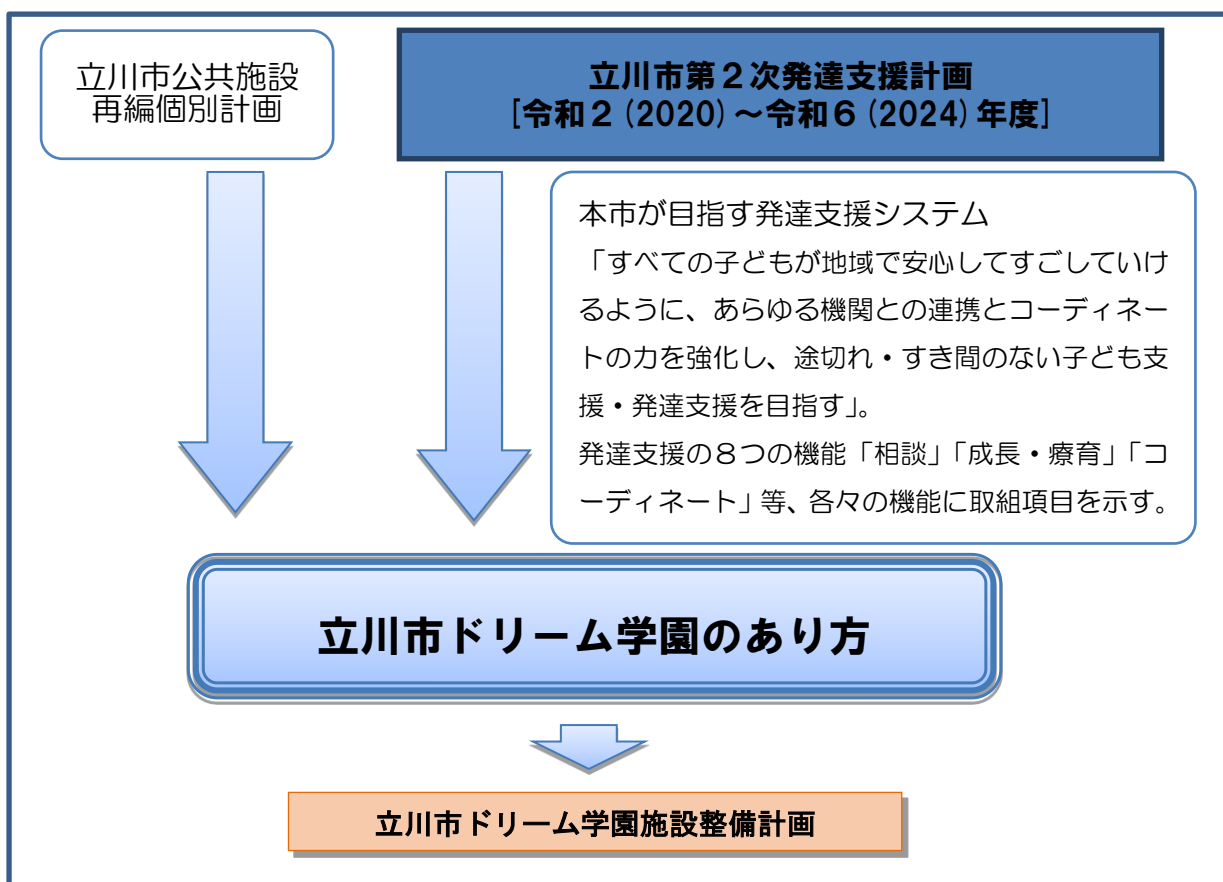
2 策定趣旨

ドリーム学園の現園舎は、昭和57年に竣工され、築後37年が経過し、施設の劣化を見据えた老朽化の対策が必要であることから、立川市公共施設再編個別計画（平成31（2019）年1月策定）（以下、「再編個別計画」）において、前期期間（平成31（2019）～令和5（2023）年度）の再編対象施設として位置づけられた。

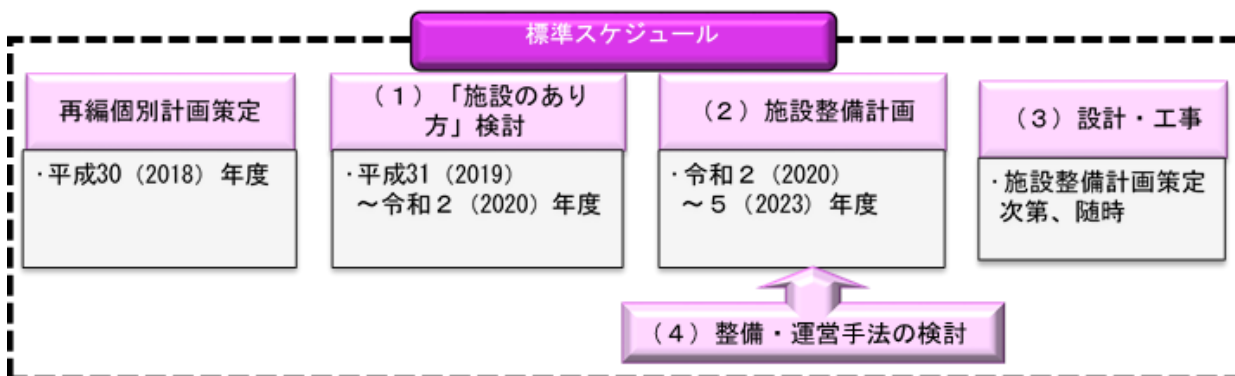
上記の老朽化の状況のほか、心身の障害や発達支援の捉え方やニーズ、サービス等の社会資源の状況がドリーム学園の設置当初と現在では大きく変化している。そのため、新たな課題や需要に対して、「立川市第2次発達支援計画」に基づき、すべての子どもが地域で安心してすごしていけるように、あらゆる機関との連携とコーディネート力を強化し、途切れ・すき間のない子ども支援・発達支援を目指し、成長・療育機能の充実を図るためにドリーム学園における事業の検討を行い、今後の発達支援の方向性を示しながら、「立川市ドリーム学園のあり方（以下「ドリーム学園のあり方」）」を策定する。

3 ドリーム学園のあり方の位置づけ

「ドリーム学園のあり方」は、前述の「立川市第2次発達支援計画」で目指す『発達支援システム』の、「すべての子どもが地域で安心してすごしていけるように、あらゆる機関との連携とコーディネートの力を強化し、途切れ・すき間のない子ども支援・発達支援を目指すこと」を推進する機能の中の「成長・療育」に係る施設として、将来の施策展開を踏まえた「施設の機能」について明らかにするものであるが、同時に施設の老朽化の状況や求められる機能を踏まえて、今後、「再編個別計画」に基づきどのように整備又は保全していくのかについての考え方を示すものとする。



《全市施設ができるまでの標準スケジュールイメージ》



※公共施設再編個別計画より抜粋（但し2020年度以降の元号を令和に修正）

第2章 施設の状況

1 施設概要

(1) 所在地

立川市柴崎町5丁目11番26号

(2) 設置根拠

立川市心身障害児通園施設条例（昭和57年3月27日条例第20号）

(3) 沿革

昭和46(1971)年	福祉会館にて開設、定員20名で事業を開始
昭和57(1982)年	新園舎（立川市心身障害児通園施設条例施行）
平成5（1993）年	早期発達支援対策として、発達支援親子グループ活動を開始
平成15(2003)年	利用のしくみが支援費制となる（利用料は有料）
平成18(2006)年	障害者自立支援法の児童デイサービスの位置付け
平成24(2012)年	児童福祉法の児童発達支援の位置付け
平成27(2015)年	利用者を25人とする
令和元（2019）年	幼児教育・保育の無償化対象施設の位置付け

(4) 設置目的

心身に障害を有する児童の福祉の増進を図ること。

(5) 敷地面積・建物概要

- 敷地面積 1,042 m²
- 延床面積 586 m²（1階 390 m²・2階 196 m²）
- 建物構造 鉄筋コンクリート造 2階建て

(6) 老朽化の状況

「立川市公共施設保全計画（改訂版）」（平成29(2017)年3月）の施設の総合劣化度によると、ドリーム学園は総合劣化度64.80で、「平成24年度順位」の33位から、「平成28年度順位」は26位となっている。「総合劣化度と施設重要度による保全優先度」では、「優先度3」の施設とされている。

現在の老朽化による対応状況では、以下のような不具合が発生する毎に応急的に随時対応している。しかし、抜本的な対応には相当な費用が発生するものと考えられる。

- 園児用便所の修繕（平成29(2017)年度）

- 排煙窓修繕（平成 29(2017)年度）
- 空調機熱電源機器交換修理（平成 29(2017)年度）
- フェンスの修繕（平成 31(2019)年度）
- 漏水工事（平成 31(2019)年度）
- 窓ガラス修繕（頻回）
- 電灯修繕（頻回）

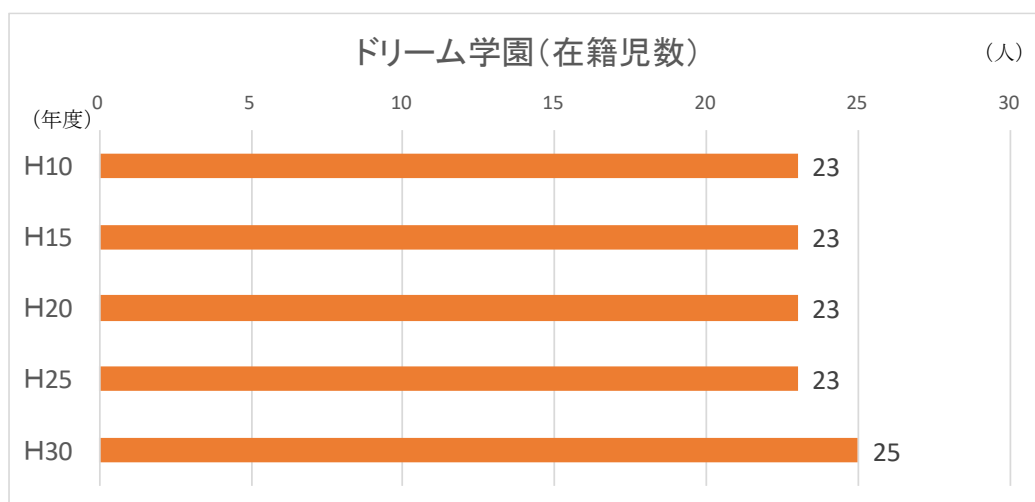
（7）施設が担う機能

ドリーム学園は主に以下の業務で利用されている。

- 児童発達支援（定員 25 人）
- 幼稚園・保育園在園児への発達支援として並行通園
- 家族支援（保護者会や父の会等への支援のほかお母さん登園日）
- 関係機関との連携

2 利用状況

在籍児数は一定であったが、平成 27(2015)年度より 2 名増加して受け入れている。



参考：各年度決算説明資料より作成

3 交通利便性

立川駅南口からバス 10 分、バス停から徒歩 2 分のところに位置している。また、多摩川に近く、市の端に設置されている。

4 ランニングコスト（年間/平成 30(2018)年度）

施設全体のランニングコスト		7,156 千円
内 訳	需用費（光熱水費、修繕料等）	4,298 千円
	役務費（電話料等）	571 千円
	委託料（維持管理に係る委託料）	2,197 千円
	使用料及び賃借料	90 千円

参考：平成 30(2018)年度決算額より作成

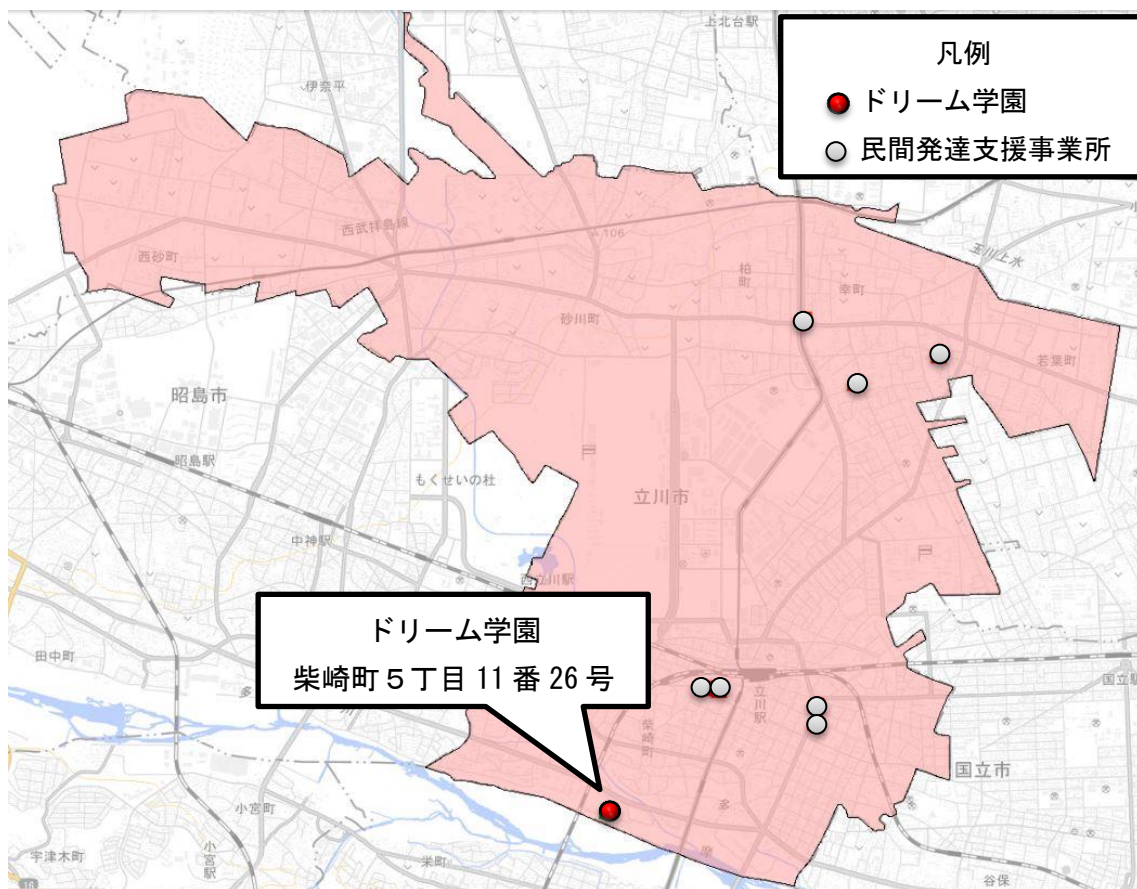
5 周辺状況

（1）類似の機能を持つ施設

児童福祉法で規定する「児童発達支援事業所」は、市内に民間で7か所ある。但し、これらの施設は、ドリーム学園とは療育の形態が異なっている。ドリーム学園は、毎日の通所が基本で、多様な発達の子ども達で構成された集団の中での個別対応を行っている。民間の事業所では、未就園からの利用もあるが、多くが、保育園や幼稚園での生活を基本としている方に、個別、小集団での療育を実施している。

（2）機能配置状況（地図）

- ①LITALICO ジュニア 立川南口教室（柴崎町2丁目3番13号）
- ②ハビー 立川教室（錦町1丁目10番25号）
- ③こどもプラス 立川幸町教室（幸町5丁目1番7号）
- ④こばんはうす さくら 立川幸町教室（幸町3丁目13番14号）
- ⑤ジョブサU18 立川南口教室（柴崎町2丁目4番15号）
- ⑥ステップきっず（幸町1丁目11番3号）
- ⑦コペルプラス 立川教室（錦町3丁目2番2号）



【図：ドリーム学園及び市内民間児童発達支援事業所】

第3章 施設の課題

1 施設を取り巻く課題

<事業機能の課題>

事業を執行する上で対応が求められる機能についての課題は以下のものがあげられる。

一つ目には、さまざまな発達支援を集団の中で個別対応を療育の基本とし、集団の大きさを変え、グループ化を図ることなどや、さらに専門性を高め、発達支援のニーズに応じた活動の検討が必要であること、二つ目には、通園先では成長や安定して活動ができていても、家庭での生活が安定せず、家族に対する支援が必要であること、三つ目には、保護者の就労や兄弟への対応などのためには、未就学で、障害等のある子の一時預かりの機能が求められていること、四つ目には、療育の一環として、また、保護者の負担感を軽減するため給食の提供が求められていること、五つ目には、国から児童発達支援センターの設置が求められており、その機能についても検討が必要であること、などの課題があげられる。

<施設の課題>

施設を管理運営する上での課題としては、以下のものがあげられる。

具体的には、エレベーターがないなど建物全体がバリアフリーとなっていないことや、発達の特性のニーズや発達段階に応じた療育や相談支援の機能を有する部屋が少ないこと、さらには、子どもたちの様子を見る観察室が狭いなどの課題があげられる。

「全市施設のワークショップの主な意見」

- 観察室狭い、みんなで子供たちを見て欲しい。音響室の充実
- 療育の為の部屋の数が少ない
- バリアフリー化してない
- 給食室やプール、お風呂、エレベーターの設置、保護者専用の出入口
- 再編個別計画の案の新しい移転場所は良い
- 延長保育・お預かり保育が必要
- 入園者人数の増加。重心児、医ケア児が通える施設、保育園・幼稚園との交流

《将来に向けた施設のあり方》

「ゆりかごから墓場までな場所」

《将来引き継ぎたいこと》

「保護者の集まれる場所」「ドリーム学園の先生方のスキル」

《将来のための工夫・アイデア》

「複合化」「IT化」「共有スペース」「子どものことはワンストップで解消」など

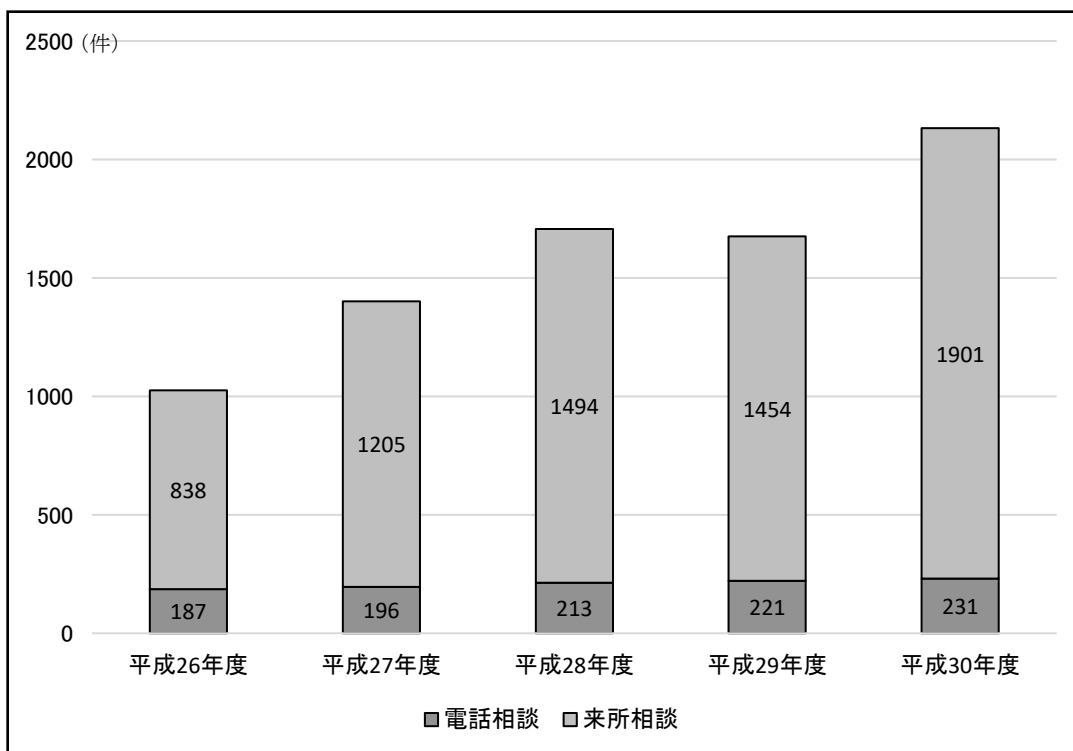
※参加者が、保護者からの意見として持ち寄った意見も含む。

2 今後の需要

今後、少子化はますます進んでいくが、ドリーム学園は、市内で唯一の毎日、通所を基本とする、児童発達支援事業所として、そのニーズは今後も継続していくと考えられる。さらに、発達支援が必要な子どもが増加し、また、児童発達支援事業の利用者も年々増加している状況である。支援のニーズも多様化し、早期支援が必要であること、さらに、障害等のある子どもの一時的預かりといったニーズに対応する必要があるが見込まれる。

＜立川市子ども未来センターで受けている「発達相談」の件数＞

立川市子ども未来センターが平成24（2012）年12月に開所して以来、各相談件数は増加している。特に来所相談件数は、平成30（2018）年度では1,901件と、平成26（2014）年で比較すると約2倍以上の件数になっている。



参考：各年度決算説明資料より作成

第4章 ドリーム学園のあり方

1 今後の方向性（機能）

ドリーム学園は、心身の発達に支援や配慮が必要な子どもを対象に、限られた資源を利用しながら、個々のニーズに合わせた総合的な発達支援を将来的に持続可能な事業として展開するため、今後、必要となる機能の方向性を以下のとおり定める。

(1) 就学前の児童に対する発達支援を提供できる施設

発達支援や配慮の必要な就学前の児童に対し、安心して、自分らしく、成長していける土台づくりの場とする。毎日の取組の中で習得されたことを家庭生活に生かせるように、保護者と共に療育を進め、保護者自身が子どもを理解でき、安定した家庭生活を送れる基盤を作っていく。さらに、障害等のある未就学児の一時預かりや肢体不自由児への対応が行えるようにする。

(2) 保護者理解を起点とした家族支援を提供できる施設

児童の発達支援や配慮が日常的に難しい場合の保護者への支援や、児童のきょうだいの支援を行う。また、保護者が集う場、保護者同士が交流、情報交換できる場（保護者会、父の会への支援、お母さん登園日の実施）を提供していく。

(3) 関係機関との連携

ドリーム学園の専門性を生かした保育園・幼稚園等への研修会提供などのほか、保育園や幼稚園、小学校、児童発達支援事業者と連携した支援を行っていく。

(4) 並行通園グループ

ドリーム学園で実施している並行通園グループ活動と立川市子ども未来センターで実施している発達支援親子グループ活動の役割等について検討する。

(5) 途切れ・すき間のない継続支援を支える施設

児童やその保護者に、途切れ・すき間のない支援を行っていくためには、ドリーム学園の果たす療育機能は、関連する発達支援の相談機能や就学相談、就学後の教育相談、乳幼児健診、妊婦サポート面接、歯科教室などの母子保健事業などと一体的かつ緊密な連携ができる施設とすることが重要である。また、ドリーム学園は、国から設置を求められている「児童発達支援センター」の機能も有しており、今後、ドリーム学園の果たす役割についても検討が必要である。

2 施設整備検討の方向性

ここでは、「1 今後の方向性（機能）」の将来の施策展開を行うにあたり、施設の老朽化の状況を踏まえて、今後、どのように整備又は保全していくのが良いかについて、以下に検討の方向性を示す。

ドリーム学園については、前述の機能を担いつつ、母子保健事業や就学相談、教育相談とさらに連携を強化することで、途切れのない一体的な支援を行うことができるため、全市に関わるその他の「子育て機能」と集約する必要がある。

「子育て機能」の集約化と施設老朽化の状況からはドリーム学園と健康会館を複合化して建替えることが望ましく、その際は立川市子ども未来センター近傍への施設移転の検討を進め、『途切れのない安心した子育てを支える拠点』とする。

3 施設整備に向けた課題

上記2の方向性を踏まえた整備を進めていくにあたり、次のような課題があるため、今後、令和2（2020）年度中に施設整備計画を取りまとめる際に検討していくこととする。

- 立川市子ども未来センター近傍の国有地の取得
- 途切れのない安心した子育てを支える拠点として、発達相談担当や就学・教育相談担当、母子保健などの健康会館（子育て世代包括支援センター機能）のほか、児童虐待や養育困難世帯担当、子育て支援担当との連携が密にとれるような環境の整備
- 複数機能の集約に伴う市民の利便性向上と関係機関への効果的な支援の検討
- 児童発達支援センターの運営・設備基準を備えた施設規模とともに、「立川市第2次発達支援計画」で示されている途切れのない発達支援の機能と役割の検討、さらには「コーディネート機能」を果たす拠点として位置づけていく必要がある。

4 検討スケジュール

今後は「ドリーム学園のあり方」を踏まえ、施設の老朽化と、発達支援に係る機能や途切れ・すき間のない子どもの発達支援の実現に向けた諸課題を検討し、令和2（2020）年度中をめどに「施設整備計画」を取りまとめる。

施設	検討対象	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
ドリーム学園	施設のあり方	検討	あり方				
	施設整備計画		検討	施設整備計画	土地取得・設計・工事等 具体的なスケジュールは今後の検討		

※スケジュール案は予定であり今後変更される場合がある。

※施設整備計画の検討で、工事までのスケジュールを検討する。